

科目番号	54001	分類	専門科目 基礎公衆衛生看護学	履修者	高度実践公衆衛生看護コース	学年	1
科目名	公衆衛生看護学概論 (Introduction to Public Health Nursing)					1	配当セメスター 前期
担当者	○大越扶貴 他1名		区分	必修	単位	2	時間数 30
授業の概要および目標						学位授与の方針との関連	
<p>【概要】 公衆衛生看護学の理念と基本を理解するとともに、地域で生活する人々の多様な健康や生活上の問題を理解し、健康の増進、疾病予防、個人や地域の健康課題の解決法、保健師としての支援活動および、保健・医療・福祉の関係者との連携支援体制について学ぶ。</p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 公衆衛生看護の理念や基盤となる概念について説明できる。 公衆衛生看護の対象と場へのアプローチ・支援方法について説明できる。 多職種連携について事例を踏まえて説明できる。 						○	1.多様な課題に対応する高度な実践力
						○	2.地域住民の自立を養う統合的支援能力
						○	3.地域の健康課題を科学的にアセスメント・分析する能力
						○	4.政策や保健事業を開発する能力
						○	5.災害対応や復興・再興感染症への危機管理能力
						○	6.公衆衛生看護・公衆衛生行政に繋がる研究能力
授 業 計 画							
回	内 容						担当教員
第1回	公衆衛生看護の理念（定義、理念）						大越 他1名
第2回	日本における公衆衛生看護の歴史、公衆衛生活動の目的・目標の変遷						
第3回	公衆衛生看護における倫理						
第4回	公衆衛生看護の基盤となる概念（権利擁護、エンパワメント等）						
第5回	公衆衛生看護の歴史						
第6回	社会構造・文化的背景の変化と健康課題						
第7回	公衆衛生看護の対象①（個人・家族）						
第8回	基本的な個人・家族へのアプローチ（家庭訪問、保健指導）						
第9回	公衆衛生看護の対象②（グループ・組織・地域）						
第10回	基本的なグループ・組織・地域へのアプローチ						
第11回	公衆衛生看護の場（行政、職域、学校、福祉他）						
第12回	公衆衛生看護活動の展開の基本と活用できる理論モデル						
第13回	諸外国における公衆衛生看護活動						
第14回							
第15回	多職種連携教育および多職種連携の現状と課題						
事前・事後学習	事前学習：次の授業に向けてテキスト該当部分を通読すること。 事後学習：講義資料等を復習すること。 単位と時間数に応じた学習時間（学生便覧参照）を参考に組み合わせること。						
評価の方法	授業課題40%、発表内容30%、グループ討議等の参加度30%を基準とし総合的に評価する。						
参考図書・資料等	◎標準保健師講座 1、公衆衛生看護学概論、第6版、医学書院、2022						
備考	オフィスアワーについては、学生便覧を参照し、教員と日程調整をする。						